



第 57 号
令和元年8月1日 発行
発行
埼玉県立がんセンター
発行責任者
病院長
坂本 裕彦

基本“唯惜命”
理念

私たちは生命の尊厳と倫理を重んじ、先進の医療と博愛・奉仕の精神によって、がんで苦しむことのない世界をめざします。

目次

- 最新の肺癌外科治療..... 1
- 緩和ケアセンターの紹介／緩和ケア病棟紹介..... 2
- がん免疫療法における遺伝子改変技術を用いた抗腫瘍効果の改善／
米国臨床腫瘍学会(ASCO)2019に参加して..... 3
- リレー・フォー・ライフ・ジャパン2019さいたまに参加しましょう!..... 4



埼玉県のマスコット コバタン

最新の 肺癌外科治療

胸部外科 副部長 中島 由貴



胸部外科 副部長
中島 由貴

＋県内初、最新ロボット手術の導入

昨年（2018年）4月より肺癌に対するロボット手術が保険適応になりました。県民の皆さまに最新の肺癌手術を受けて頂けるよう、当センターでも埼玉県内で初めてロボット手術を導入しました。胸部外科では以前より患者さんにやさしい手術を目指して胸腔鏡（内視鏡）手術を数多く行っており、この経験がロボット手術の導入に大変活かされています。米国 Intuitive Surgical 社製の da Vinci（ダヴィンチ）という名前のロボットを使用しています。

＋ロボット手術の魅力

患者さんの立場での一番の魅力は、手術による体の負担や痛みを軽減できるという点です。具体的には1 cm程のポート（穴）を5－6カ所作成して手術を行います。術後の痛みが少なく手術翌日からしっかり歩行したり、食事をする事ができます。退院も早く、日常生活への復帰もスムーズです。



手術支援ロボット『da Vinci』

手術風景です。患者さんの側に2名の医師が付きま

外科医の立場での魅力は、視野と操作性の素晴らしさが挙げられます。立体視できる3次元のフルハイビジョンモニターで胸の中を拡大して視ることが出来ます。手術操作に使用するアームは3本あり7つの関節を持ち360度の回転が可能ですので、今までにない自由自在な動きが出来ます。この様に『良く視えて』、『優れた操作性』を持つロボットによって、より安全でより精度の高い手術を患者さんに受け取れると考えております。



術者はコンソールに入りロボットを操作します。同じ手術室内に設置されています。

＋安全性への取り組み

ロボット手術は今まで胸腔鏡手術を数多く経験したスペシャリストが担当しています。4名の呼吸器外科専門医がロボット手術のための専門研修を受け、資格を取得しています。また外科医だけでなく、麻酔科医、看護師、臨床工学技士等、ロボット手術に関わる全ての職種でチームを作り、随時研修や勉強会、カンファレンスを行っています。院内に低侵襲センターを設置



胸部外科の医師

し、各科ロボット手術を行うに当たり厳しい基準を設けており、がんセンター全体で事故の無い安全な手術を目指しております。

＋ロボット手術を希望される患者様へ

現在ロボット手術は、肺癌もしくは転移性肺腫瘍で、『肺葉切除』という肺を大きめに取る手術が必要な患者様が対象になります。ご希望があれば担当医師に遠慮なくご相談下さい。



緩和ケアセンター
ジェネラルマネージャー
山戸 千枝

緩和ケアセンターの紹介

緩和ケアセンターは、患者さんが、外来通院中・入院中・在宅療養中に関わらず緩和ケアを受けられるよう調整する役割を担っています。また、地域の緩和ケア推進のために研修会等を開催しています。

緩和ケアは最期に受けるもの…と思いませんか？緩和ケアは、診断された時から病気による体や心のつらさを和らげ、その人らしい生活が送れるよう支えていくことです。そのために、緩和ケアセンターには、緩和ケ



アの経験豊富な医師・看護師・薬剤師等が所属し、患者さんとその家族にきめ細やかなケアを提供しています。

緩和ケアセンターでは、毎年10月に緩和ケアについてより多くの方に知っていただくため、「緩和ケア週間イベント」を開催致します。ご興味のある方は、お気軽に足をお運びください。私たちは、多くの患者さんがいつでもどこでも継ぎ目なく緩和ケアを受け、安心して暮らせるよう尽力してまいります。

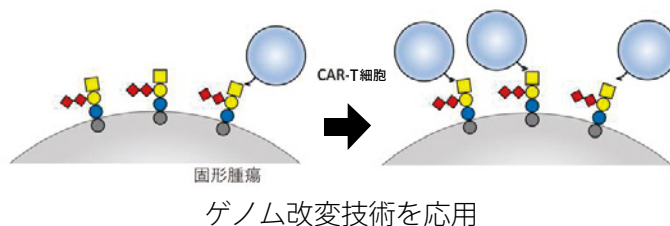
緩和ケア病棟紹介

緩和ケア病棟では、病気を抱える患者さんとその家族が体験する、からだや気持ちの辛さを和らげ、自分らしさを取り戻し、より豊かな生活が送れるように支援させていただいています。がんセンター最上階の10階にあり、晴れた日には窓からスカイツリーや富士山を眺めることができます。穏やかな時間を過ごせる環境となっており、全室個室となっております。デイルームでは、ボランティアによるティーサービスや、ミニコンサートなど、患者さんに楽しんでいただける催しもあります。緩和ケア病棟と聞かれると、退院ができないのではないかと心配される方もいらっしゃると思いますが、患者さんの体調や患者さん・御家族の意向に合わせて、相談支援センターや地域の医療機関と連携し、住み慣れた地域で過ごせるように支援しています。今後も、患者さん・御家族の思いに寄り添い、その人らしく生きることを支えてまいります。



「がん免疫療法における 遺伝子改変技術を用いた 抗腫瘍効果の改善」

臨床腫瘍研究所
和田 朋子



最近のがん治療において、免疫療法は生体内の免疫を強めることによって抗腫瘍効果を得る治療法として注目されています。免疫療法の一つであるCAR-T療法は、体内のがんを特異的に攻撃するT細胞を工学的に作成しがんを攻撃させる治療法です。血液のがんに対する抗CD19 CAR-T療法はこれまで米国やヨーロッパなど一部の国で承認されていましたが、今年日本においても承認されたことから今後のさらなる普及が期待されます。血液のがんだけでなく多

くのがんを占める固形腫瘍に対してもCAR-T細胞療法の研究が行われていますが、その効果は乏しく有害事象も認められるため、CAR-T細胞を臨床に応用するには今後のさらなる改善が望まれています。そこで私たちはゲノム編集技術を応用することで、固形腫瘍におけるCAR-T細胞の抗腫瘍効果を高める研究を進めています。今後普及が期待されるCAR-T細胞による治療がさらに効果的なものとなることを期待して日々研究に取り組んでいます。



呼吸器内科 科長兼部長
酒井 洋

米国臨床腫瘍学会(ASCO) 2019に 参加して

今回、米国臨床腫瘍学会に参加してきましたので、学会の概要と発表内容を紹介します。

皆さんはがんに関する世界で一番大きな学会（会員数3

万人）の米国臨床腫瘍学会（ASCO: American Society of Clinical Oncology）をご存じでしょうか？毎年6月の第1週にシカゴで年次総会が開催されています。米国（約50%）を中心に、欧州、アジア（日本からは5%）・オセアニア、アフリカ大陸など世界から約4万人のがん医療関係者、患者が集い、臨床試験の結果等について最新の研究発表を聞き、学びを深めています。

当センターからは毎年5～6名が参加しており、今年は呼吸器内科から1名（酒井）、消化器内科から2名（原科長・松島医長）、乳腺腫瘍内科から2名（井上科長・永井副部長）が参加しました。この学会はがん研究のオリンピックとも称されており、演題を提出しても採択率は10%以下の非常に狭き門です。

発表の形式は以下の4つがあります。

- ① プレナリーセッション（全体でTop 5程度が選ばれ4万人の前で口演）：明日からのエビデンスが変わる発表内容で、金メダル中の金メダル



- ② 口演（各分野のTop10程度）：金メダル

- ③ ポスターディスカッション

- ②に選ばれなかった各分野のTop15程度：銀メダル

- ④ ポスター（その他）：銅メダル

当センターは新薬の国際共同治験を多数行っており、治験に関する発表がASCOで毎年行われています。筆頭演者は通常治験の主任研究者で、共同演者は症例登録数順に併記されます。今回私は当科で受託した新規分子標的薬（テポチニブ）の口演発表の共同演者でした。この薬剤は、Met遺伝子14番のスキッピングという遺伝子変異が原因で発生した肺がん（肺がん患者さんの約4%）に対して非常に有効な薬剤です。現在第2相試験が進行中で、途中経過の段階ですが非常に素晴らしい結果だったので口演に選ばれました。今回の報告は90名の患者さん（当院から6名参加していただきました）の結果報告でしたが、この内容は2019年7月19日に酒井が日本臨床腫瘍学会で口演発表を行いました。

ASCOの年会費は約7万円、年次総会参加費（事前登録）は会員が約7万円、非会員が約10万円と高額なのが玉に瑕です。

リレー・フォー・ライフ・ジャパン2019さいたまに参加しましょう!



副病院長 RFLJさいたま2019副実行委員長 横田 治重

患者様・ご家族の皆様、リレー・フォー・ライフ(RFL)をご存じですか?がんセンタースタッフの皆様はさすがに耳にしたり、ポスターを目にしたりしたことはあるでしょうか?RFLはがん患者とその支援者(ご家族・ご遺族・ボランティア・医療者等)を讃え、がんを打ち克つ社会を目指すチャリティ活動です。埼玉県ではさいたま市/川越市の2カ所で行われ、毎年9月にそれぞれで行われる24時間リレーウォークイベントはともに今年11回目を迎えます。当院はさいたまのイベントに毎年リレーウォークチームとして参加するほか、会場の内外で病院長をはじめ多職種が様々な啓発活動を行っています。

今年も9月14日(土)～15日(日)にさいたま市緑区農業者トレーニングセンターで開催されますが、昨年は会場に100名以上のがん経験者を含む3,500名の方がおいでになり、がんを闘う患者さんとその支援者を讃え、旅立たれた方を偲び、がんを打ち克つために学びを得ていきました。

がんセンターチームは24時間夜通し歩いて、24時間がんに向き合う患者様やご家族と共に戦う気持ちを新たにしていますが、参加の仕方は様々です。1時間でも30分でも会場にいらっしゃれば、共にがんを闘う仲間の笑顔や涙に出会い、がんと共に生きることの喜びや苦しみ・悲しみを分かち合うことができるでしょう。

詳しい情報・参加方法は院内のポスターなどで順次ご案内します。今年こそ何かの形でご参加ください!



編集後記



がんセンターだより第57号をお届けいたします。胸部外科・中島先生には、肺癌の最新ロボット手術をわかりやすく紹介していただきました。看護部からは緩和ケア病棟と緩和ケアの実際が紹介されています。臨床腫瘍研究所から投稿いただいたがん免疫療法は最近注目されている治療法です。呼吸器内科・酒井先生の米国臨床腫瘍学会2019報告からは、権威ある国際学会の熱気が伝わってまいります。最後は、「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2019さいたま」のご案内です。

編集委員一同、これからも紙面の充実を図っていきたいと考えております。ご意見、お問い合わせは、医事・経営担当までお願いいたします。 文責：楮本 清史

編集委員

横田 治重(副院長)、楮本 清史(脳神経外科)、
江原 一尚(消化器外科)、山本 剛(腫瘍診断・予防科)、
京坂 紅(緩和ケア科)、足立 克之(婦人科)、
五木田 茶舞(整形外科)、川村 眞智子(血液内科)、
相馬 貴彦(泌尿器科)、遠藤 奈美(看護部)、
竹信 尚典(臨床腫瘍研究所)、山口 明(放射線技術部)、
小林 一彦(検査技術部)、山本 千尋(薬剤部)、
北村 祐哉(医事・経営担当)、石川 志郎(地域連携)、
腰塚 智史(総務・職員担当)、丸山 礼子(総務・職員担当)、
近藤 祐子(図書館)、中内 良輔(総務・職員担当)